

# イングランドにおける乳幼児期教員資格に関する一考察

— 教員スタンダードに注目して —

## A study of the quality of ECEC and Early Years Teacher Status in England

土井 貴子

Takako DOI

キーワード：教職論・乳幼児期教員・教員スタンダード・資格

### はじめに

イングランド初の教育学教授となったジョセフ・ペイン (Joseph Payne: 1808-1876) は、教育の質の向上を目的として教員養成に尽力した人物である。彼は、教育という営みを、「日々の経験の諸現実との生き生きとした触れ合いに知性を導き入れることによって、知性の力に気づかせること、観察、理解、内省、判断、理由づけなどの知性の機能を適切に使うことによって知性を高めること、明確で的確な自分の考えを持つように知性を促進させること、言い換えれば、つまり、考える習慣をつけるために知性を鍛錬することなのである」と捉えていた。それゆえに、教師は教える学科に関する知識、生徒という存在の本質に関する知識、最良の教授法に関する知識に精通していなければならないと考えていた<sup>1</sup>。

教師は、教育の要である。教室実践の質の向上は、教育内容や教授法とともに、教員養成と教師の資質能力に関わる問題でもある。イギリスの教育史家であるリチャード・オルドリッジは、『イギリスの教育』において教育の質を論じた章のなかで教師の資質・能力について次のように述べている。優れた教師とは、「熱心で、毅然としており公平で、生徒たちを鼓舞し、担当教科に関して豊富な知識をもち、生徒の成長に心を配るような人物である」。しかし「その逆に、あまり熱心ではなく、退屈で不公平であり、無知で生徒のことをほとんど気にかけていない人物が優れた教師であるという人はほとんどいないだろう」と<sup>2</sup>。日本においても、いつの時代でも変わらずに教員に求められる資質能力として、「教育者としての使命感や責任感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力」が挙げられており、このことは繰り返し述べられてきた<sup>3</sup>。時代や地域が変わっても、教師に求められる資質能力は共通していると言っても過言ではないであろう。

もちろん、幼児期の教育・保育に携わる保育者にも、求められる資質能力がある。世界的に幼児期の教育・保育への関心が高まるなかで、その質の向上が議論され<sup>4</sup>、保育者の養成や資格、求められる資質能力も論じられてきた。とくにイングランドでは、2000年ころから、幼児期の教育・保育に携わる保育者たちの資格の標準化と高度化が進められてきた。その過程で2013年に、教員スタンダード（乳幼児期）が示されている。本稿では、イングランドにおける乳幼児期教員の資格をめぐる動向を概観した上で乳幼児期の教育・保育にもとめられる保育者の資質能力を紹介したい<sup>5</sup>。

### 1. 乳幼児期の教育・保育と教員資格をめぐる動向

イングランドには、ナーサリー、レセプション・クラス、プレイグループ、チャイルド・マインダーなど、多様な乳幼児期の教育・保育機関や事業者が存在している。それら機関等で乳幼児期の教育・

保育に従事する保育者の役割も多様である。そのため、保育者に求められる統一的な資格は存在しなかった。幼児期の教育・保育施設で有資格保育者と認められる有効な資格が、数多く存在していたのである。

イングランドでは歴史的に、乳幼児期の教育・保育に限らず多様な領域において、国家等による免許資格の独占はおこなわれていなかった。複数の試験団体や資格付与団体が存在し、それぞれの機関が資格を付与してきたのである。そのため幼児期の教育・保育の領域においてもまた、長い間統一的な資格はなく、複数の資格団体等が個別に資格等を出していた。例えば、初等学校に付設されている就学前の3-5歳児を対象に教育をおこなうレセプション・クラスの教員には、資格が統一される以前は、初等学校や中等学校の教員と同様の教員資格の取得が求められた。その養成は、初等学校教員養成のなかに位置づけられていた<sup>6</sup>。バーミンガム大学の場合（2008-9年頃）、大卒教師資格（Post-Graduate Certificate in Education：PGCE）コースにおける初等学校の教員養成は、幼児低学年コースと一般初等コースに分けられていた。レセプション・クラスの教師であっても、PGCEの幼児低学年コースを修了し、英語、数学、情報コミュニケーション技術（ICT）の技能テスト（QTS skills test）に合格し、教師として登録することができた場合、教員資格（Qualified Teacher Status：QTSと略記）を取得できた<sup>7</sup>。プレイグループの保育者やチャイルド・マインダーなど、その他の乳幼児期の教育・保育に従事する保育者の養成や資格付与においては、また別の養成の仕組みや資格があった。

2000年以降、幼児期の教育・保育の質の向上のためには、保育者の資格の標準化と高度化が必要であると考えられるようになった。また2003年に発表された緑書『どの子どもも大切（Every Child Matters）』の提言を受けて、2005年に青少年人材開発評議会（Children's Workforce Development Council：以下CWDCと略記）が設立された。乳幼児から19歳までの青少年の生活に関わる職業に従事する人々のすべてが、最良の養成、資格、支援と援助を確実に得られるようにすることが、CWDCの目的の一つであった。そこには、乳幼児期の教育・保育に従事する保育者の養成と資格の付与も含まれた。

CWDCは、2007年に乳幼児期専門職資格（Early Years Professional Status）を導入し、その養成と資格の付与を開始した。2008-2009年の年次報告書によれば、当該年度に2,885名が乳幼児期専門職資格を取得し、2,488名が養成コースを受講中であった。この乳幼児期専門職資格は、その対象を学位保持者とした点、乳幼児期の教育・保育に携わる保育者に求められる資質能力として31の乳幼児期専門職資格スタンダードを定め用いた点が特徴的であった。その後、CWDCの廃止などの見直しがなされ、2013年に全国教師及び学校管理者支援機関（National College for Teaching and Leadership）の下で新しい資格として乳幼児期教員資格が導入された。あわせて、乳幼児期教育者（Early Years Educator）が職業資格のレベル3（Level 3）に位置づけられた。

こうした乳幼児期の教育・保育に従事する保育者の資格の標準化と高度化は、乳幼児期の教育・保育のナショナル・カリキュラム化と連動していた。イングランドでは、2000年に就学前の教育内容の法的な基準として『基礎段階の手引き（Foundation Stage guidance）』が発行された。同時に、基礎段階がキー・ステージの前段階である義務教育の準備段階に位置づけられた。続いて、2008年に子どもたちが学び、調和的に発達し、健康を保ち、保護されることを保証するために、すべての乳幼児期の教育・保育の提供者が満たさなければならないスタンダードとして最初の乳幼児期基礎段階法定枠組み（Statutory framework for the Early Years Foundation Stage：以下EYFS法定枠組みと略記）が示されたのである。子どもの学習と発達の要件、評価の要件、そして安全対策と福祉の要件の3つのセクションで構成されるEYFS法定枠組みは、乳幼児期の教育・

保育に携わるすべての機関や保育者が法的に守らなければならない子どもたちの育ちと福祉のスタンダードである<sup>8</sup>。乳幼児期教員は、EYFS 法定枠組みについての知識を有し、乳幼児期の教育・保育を主導する役割を担うことが求められている。

## 2. 教員スタンダード（乳幼児期）

2013年に導入された乳幼児期教員の地位を獲得するためには、主として資格取得につながる教員養成コースにおいて教育・訓練を受ける必要がある<sup>9</sup>。そうした教員養成機関で教育・訓練を受けるために志願者は、いくつかの要件を満たしておかなければならない。それは、学位を有していること（一部、学部生も含む）、英語、数学、科学の3科目においてGCSEのCレベルを有していること（同等の資格も含む）、リテラシーと計算の専門技能試験に合格していることの3つである。この要件を満たした者が、1年間のフルタイムの養成コースあるいはすでに職を有している保育者がパートタイムで学ぶ養成コースなどのいずれかの教員養成コースで教育・訓練を受け、コースを修了することで乳幼児期教員の資格を得ることができる<sup>10</sup>。その際、教員スタンダード（乳幼児期）を上回っていることが求められる。

教員スタンダード（乳幼児期）は、乳幼児期教員として教育・保育機関で働き始める際に備えておくことが求められる資質能力を示すものである。スタンダードは、期待の設定、発達の助長、カリキュラムについての知識の保持、教育計画の作成、長所や課題に応じた保育、評価の実施とその活用、福祉の保障、専門家としての責任の8つの領域に分けられている。全部で38項目ある。

以下に教員スタンダード（乳幼児期）の邦訳を掲載する<sup>11</sup>。

### 前文

乳幼児期教員は、乳幼児の教育と養護を最優先する。専門性に基づいて実践実行するなかで、最高の水準に到達する責任を負う。乳幼児期教員資格は、生後すぐから乳幼児期基礎段階を終えるまでの実践において、教育と養護を主導し、この水準のすべてを満たしていると判断される大学卒業生（学位保持者）に与えられる。

乳幼児期教員は、誠実さと正直さをもって行動する。幼児期の発達についての高度な知識を有しており、最新の知識や技能を獲得し、自己を省察することができる。（初等教育段階の：筆者注）キー・ステージ1並びにキー・ステージ2のカリキュラムが、乳幼児期のカリキュラムと連続していることを理解している。乳幼児の最善の利益という観点から、保護者とケアラーの両方またはその一方と建設的で専門的な関係を構築し、ともに取り組む。

乳幼児期教員は、以下のことをしなければならない。

1. すべての幼児を鼓舞し、その意欲を育て、彼らを刺激するような高い期待を（幼児に：筆者注）かけること。
  - 1.1 幼児が自信をもち、学び発達できる安全で刺激的な環境を構成し維持すること。
  - 1.2 あらゆる背景の、能力の、特性の幼児を伸ばし、彼らが挑戦しようとする目標を設定すること。
  - 1.3 幼児に身につくことが期待される、前向きな価値観、態度、振る舞いを行動で示し、モデルになること。

2. 幼児の最良の発達を助長し、教育成果を上げること。
  - 2.1 幼児の成長、到達や教育成果について説明できること。
  - 2.2 乳幼児の学習と発達の過程についての知識を有し、理解していることを示すこと。
  - 2.3 愛着理論とそれらの重要性、安定した愛着を深める効果的な方法を知っており、理解していること。
  - 2.4 幼児の学習や思考を育み伸ばす効果的なストラテジーを用いて指導し、具体化すること。そこには子ども間の考えを共有すること（sustained shared thinking）も含まれる。
  - 2.5 乳児から5歳児までの幼児と効果的にコミュニケーションを図ること。聞き、丁寧に応答すること。
  - 2.6 集団での学習を通して、幼児の自信を高め、社会性やコミュニケーション能力を育てること。
  - 2.7 保護者とケアラーの両方またはその一方が及ぼす影響の重要性を理解すること。幼児の福祉、学習、そして発達を支援するために、彼らと協力して取り組むこと。
3. 乳幼児期の学習と乳幼児期基礎段階についての適切な知識を示すこと。
  - 3.1 乳幼児期の発達や、学校での望ましい学習や発達を導く方法についての確かな知識を有していること。
  - 3.2 幼児の経験を深め、幼児の期待をかき立てる方法を明確に理解していることを示すこと。
  - 3.3 乳幼児期基礎段階の学習や発達について批判的に理解をし、キー・ステージ1及びキー・ステージ2への期待、カリキュラムや教授活動の教育的な連続性を持って関わること。
  - 3.4 読みの初歩を指導する際に、体系的で、統合的なフォニックスを明確に理解していることを示すこと。
  - 3.5 算数の初歩を指導する際に、適切なストラテジーを明確に理解していることを示すこと。
4. すべての幼児のニーズを考慮した、教育と養護の計画を立てること。
  - 4.1 幼児の発達と学習を観察し、評価すること。そしてそれを、次の段階の計画に利用すること。
  - 4.2 調和的で柔軟な活動と教育計画を作成すること。その際、幼児の発達段階、状況、関心を考慮すること。
  - 4.3 保護者とケアラーの両方またはその一方と連携して、好奇心を助長し、知的好奇心を刺激すること。
  - 4.4 幼児の年齢や能力に適した集団活動を導くためのさまざまな教授法を用いること。
  - 4.5 提供した保育の継続的な改善を図るために、教授活動と教育計画の効果を省察すること。
5. すべての幼児の長所や課題に教育と養護を合わせること。
  - 5.1 幼児の学習と発達を阻害するさまざまな要素、そしてそれらに対処する最良の方法を確実に理解していること。
  - 5.2 乳児及び幼児の身体的発達、精神的発達、社会的発達、知的発達、そしてコミュニケーションの課題に気付いていることを示し、教育と養護を多様な発達段階にある幼児への支援に合わせる方法を知っていることを示すこと。
  - 5.3 すべての幼児のニーズを明確に理解していることを示すこと。そこには、特別な教育課題や障害をもつ幼児を含む。また、そうした幼児に関わり支援するのに特有のアプローチを利用したり、それを評価したりできること。

- 5.4 さまざまな移行（transition）時に幼児を支援すること
  - 5.5 幼児が追加的支援をいつ必要とするのか、そうした支援をどのようにすれば利用できるのかを知っていること。それらを保護者とケアラーの両方またはその一方と、また他の専門家と連携しておこなうこと。
6. 評価を正確かつ生産的に用いること
- 6.1 乳幼児期基礎段階枠組みの範囲で評価を理解し、指導すること。そこには、法定評価要件を含むこと。
  - 6.2 保護者とケアラーの両方またはその一方と、また他の専門家と共に、一人ひとりの幼児についての継続評価と措置（provision）に効果的に関わること。
  - 6.3 目標達成に向けて幼児の成長を支援するために、幼児に、また保護者とケアラーの両方またはその一方に、定期的なフィードバックをおこなうこと。
7. 子どもの福祉を守り促進すること。安全な学習環境を提供すること。
- 7.1 健康及び安全に関わる法令や指針を知っており、それに基づいて行動すること。幼児の福祉を守り、促進すること。
  - 7.2 安全な環境を構成し、維持すること。幼児の健康及び安全を促進する実践に取り組むこと。
  - 7.3 幼児の保護政策及び手続きを知っており、理解していること。幼児が虐待の恐れや危険にさらされていないかを見極めること。そうした幼児を保護するための行動のあり方を知っていること。
8. 専門家としての広範な責任を果たすこと。
- 8.1 機会の平等と反差別の実践を促進させること。
  - 8.2 その環境での活動やエートスを深めるよう積極的な貢献をすること。
  - 8.3 同僚、保護者とケアラーの両方またはその一方、他の専門家、こうした関係者の協働の文化を率先して育むこと。
  - 8.4 効果的な教育と養護を示し、実践すること。乳幼児期教育者を含むその他の実践家を支援し導くこと。
  - 8.5 自分自身に対するまた同僚に対する、適切な専門的成長を通じた実践を指導する責任を負うこと。
  - 8.6 提供した保育の効果を省察し、評価すること。優れた実践を具体化し支援すること。
  - 8.7 複数の機関からなるチームでの活動の重要性を理解し、それに貢献すること。

## 小括

乳幼児期教員は、生まれてから就学するまでの乳幼児の発達に欠くことのできない重要な役割を果たすことが期待されている。それは、質の高い教育・保育を提供することによって果たされる。そのために、養成段階で、ナショナル・カリキュラムである乳幼児期基礎段階法廷枠組みに沿った教育・保育を実践するための訓練を受けること、すべての子どもが高い水準の学習にアクセスすることを確実にする知識や技能を用いる方法を学ぶことが求められる。

こうした、教員スタンダード（乳幼児期）を定め、養成機関での訓練を受け、それに到達していると認められる者にのみ乳幼児期教員資格を付与するという資格の標準化と、対象を学卒者に限定することを含めた資格の高度化といったあり方は、乳幼児期の教育・保育の質の向上の一つの方途

であろう。ただし、乳幼児期教員資格は、初等学校及び中等学校の教員に求められる教員資格(QTS)とは異なる資格とされ、QTSと同等とは認められていない。また、スタンダードを定めることにより生じる教育の統制と教師の専門性の問題も生じるであろう。日本での保育者の養成と資格免許のあり方や質の向上の取り組みとはずいぶん異なるあり方である。

イングランドで乳幼児期教員資格が導入され、現行の教員スタンダードを満たすことが求められるようになったのは、2013年であり、まだはじまったばかりである。乳幼児期教員の養成と資格、教員スタンダードの取得をめぐる具体的な状況を考察し、その成果と課題を明らかにすることは、今後の課題である。

## 註

- 1 リチャード・オルドリッジ著、山崎洋子、木村裕三監訳『教育史に学ぶ—イギリス教育改革からの提言—』知泉書館、2009年、179-180頁。
- 2 リチャード・オルドリッジ著、松塚俊三、安原義仁監訳『イギリスの教育—歴史との対話—』玉川大学出版部、2001年、第4章。
- 3 文部科学省教育職員養成審議会答申『教員の資質能力の向上方策等について』1987年、文部科学省中央教育審議会答申『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』2012年、文部科学省中央教育審議会答申『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について—学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて—』2015年など。
- 4 OECDは、1990年代末に幼児期の教育についての国際的な調査研究プロジェクトを発足させ、2001年に報告書 *Starting Strong Early Childhood Education and Care* を刊行しているし、2007年には幼児教育・保育の現状や政策動向、今後の方向性について議論する幼児教育・保育ネットワーク会議を立ち上げている。鈴木正敏「幼児教育・保育をめぐる国際的動向—OECDの視点から見た質の向上と保育政策—」『教育学研究』第81巻第4号、2014年、78-89頁を参照。
- 5 先行研究には、埋橋玲子「イングランドの保育従事者の資格(YET, EYE/Level3)について」『現代社会フォーラム』11号、2015年、26-38頁がある。
- 6 イングランドの初等学校の多くは、公立・公営セクターの場合、5-7歳までのインファント・スクール(第1学年と第2学年)と7-8歳から10-11歳までのジュニア・スクール(第3学年から第6学年の4年間)に分けられている。インファント・スクールに、3-5歳のレセプション・クラスが設けられている。
- 7 拙稿「大卒教師資格(PGCE)初等・幼児低学年コースにおける教員養成の実際—バーミンガム大学を事例として—」『和顔愛語』比治山大学短期大学部幼児教育研究会、38巻、2010年、1-7頁。
- 8 拙稿「イギリスの幼児教育カリキュラムと質保証」『和顔愛語』比治山大学短期大学部幼児教育研究会、44巻、2015年、19-25頁。
- 9 養成ルートは、複数あり、大学主導の養成と学校主導の養成に分けられる。前者は、修士号取得にもつながる学卒者ルートと雇用ベース・ルートが代表的である。後者は、SCITT (School-centred Initial Teacher Training) やティーチ・ファースト (Teach First)、スクール・ダイレクト (School Direct) がある。そのほかに、保育経験を持つ者を対象とした Assessment Only もある。
- 10 乳幼児期教員資格は、初等学校及び中等学校の教員資格である QTS とは異なる資格である。乳幼児期教員資格を取得しても、QTS を取得したことにはならない。QTS を取得するためには、QTS につながる教員養成コースを再度受講し、修了する必要がある。
- 11 National College for Teaching and Leadership, *Teachers' Standards (Early Years) from September 2013*.